

あなたの家のIoT機器が悪用されている!?

インターネットバンキング不正送金事案などで「踏み台」に!



どんな悪用事例がある?

◆ 警察では マルウェアに感染した家庭用パソコンやIoT機器が悪用されプロキシサービスを通じて犯罪の踏み台となる事例を確認しています。

事例1 海外で放送されているTV番組やインターネット配信の動画を視聴するためのIoT機器がマルウェアに感染しており、不正送金の踏み台に悪用されていた。

事例2 「余っているネット帯域を他者に共有して利益が得られる」という、いわゆる収益アプリをインストールし、他者へ自身のネット帯域の貸し出しに同意したところ、不正送金の踏み台に悪用されていた。

自宅のIoT機器を悪用されないために…

- 安価な製品の利用はマルウェアに感染するリスクがあります。セキュリティ基準を満たしたIoT製品にラベルを付与するJC-STAR制度※が本年3月から開始されています。安心できるラベル付きのIoT製品を購入し、利用しましょう。

※ 共通的な物差しでIoT製品に具備されているセキュリティ機能を評価・可視化し、利用者が求めるセキュリティ水準の製品を容易に選択できることを目的に運用開始した制度です。

- フリーソフトやアプリのインストールはマルウェア感染や、悪用されるリスクがあります。作成元をよく確認し、不審なソフトやアプリのインストールは行わないようにしましょう。
- その他、使用している機器のウイルスチェックや使用しない機器のネットワークからの切断など、基本的な対策を徹底しましょう。

JAPAN CYBERSECURITY LABEL
ジャパン・サイバーセキュリティラベルRegistered ID: 0123456789012345
Information-technology Promotion Agency, JAPAN (IPA)

[JC-STARの適合ラベル]

◀サイバーコネクトSHIG@▶定期的にソフトウェアの脆弱性情報をチェックしましょう。

←公式X

滋賀県警察本部 サイバー犯罪対策課 077-522-1231 (代表)

県警Webページ→